

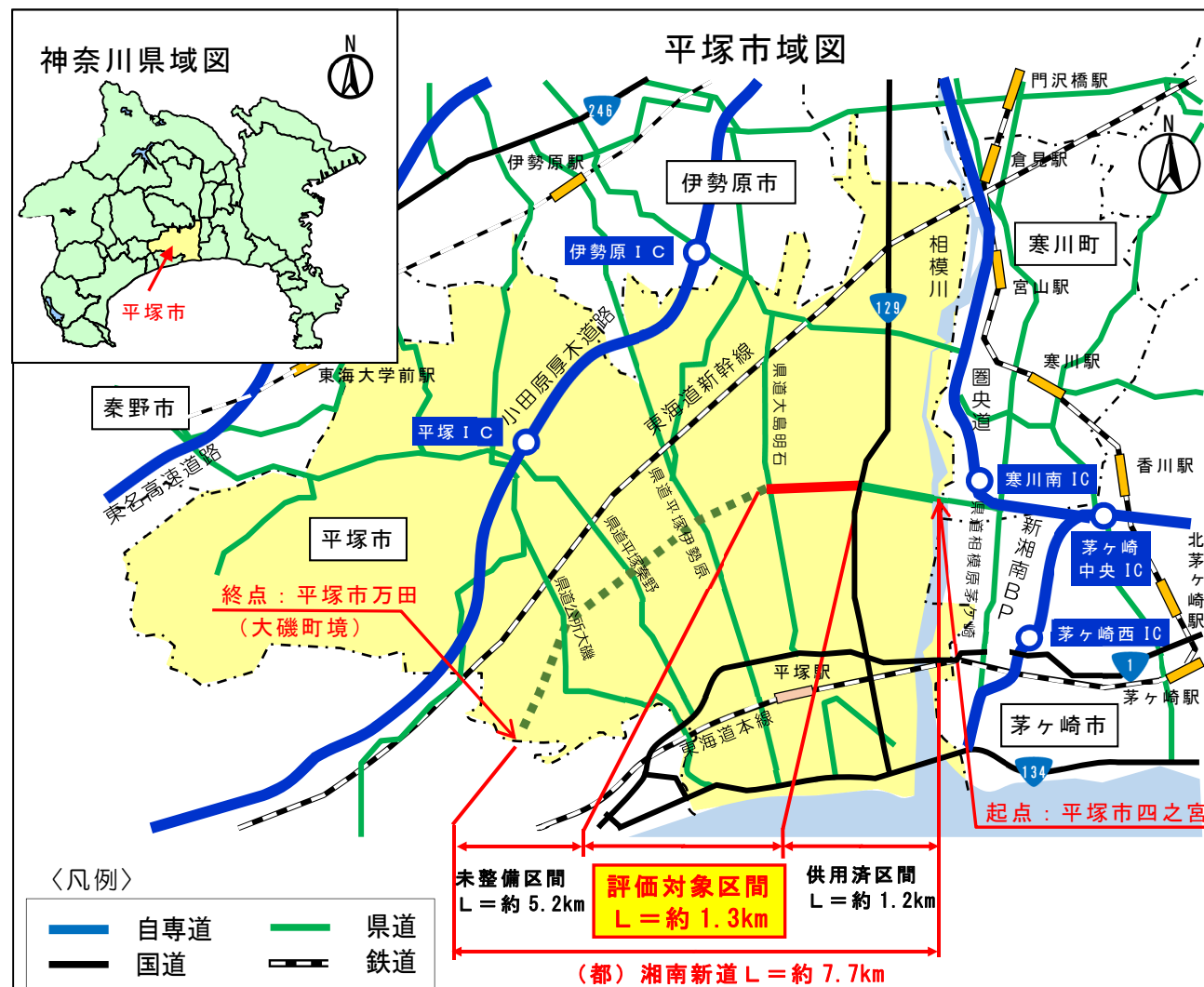
No. 4 都市計画道路 湘南新道 街路整備事業

◆ 事業概要

1. 概要

1) 全体の概要

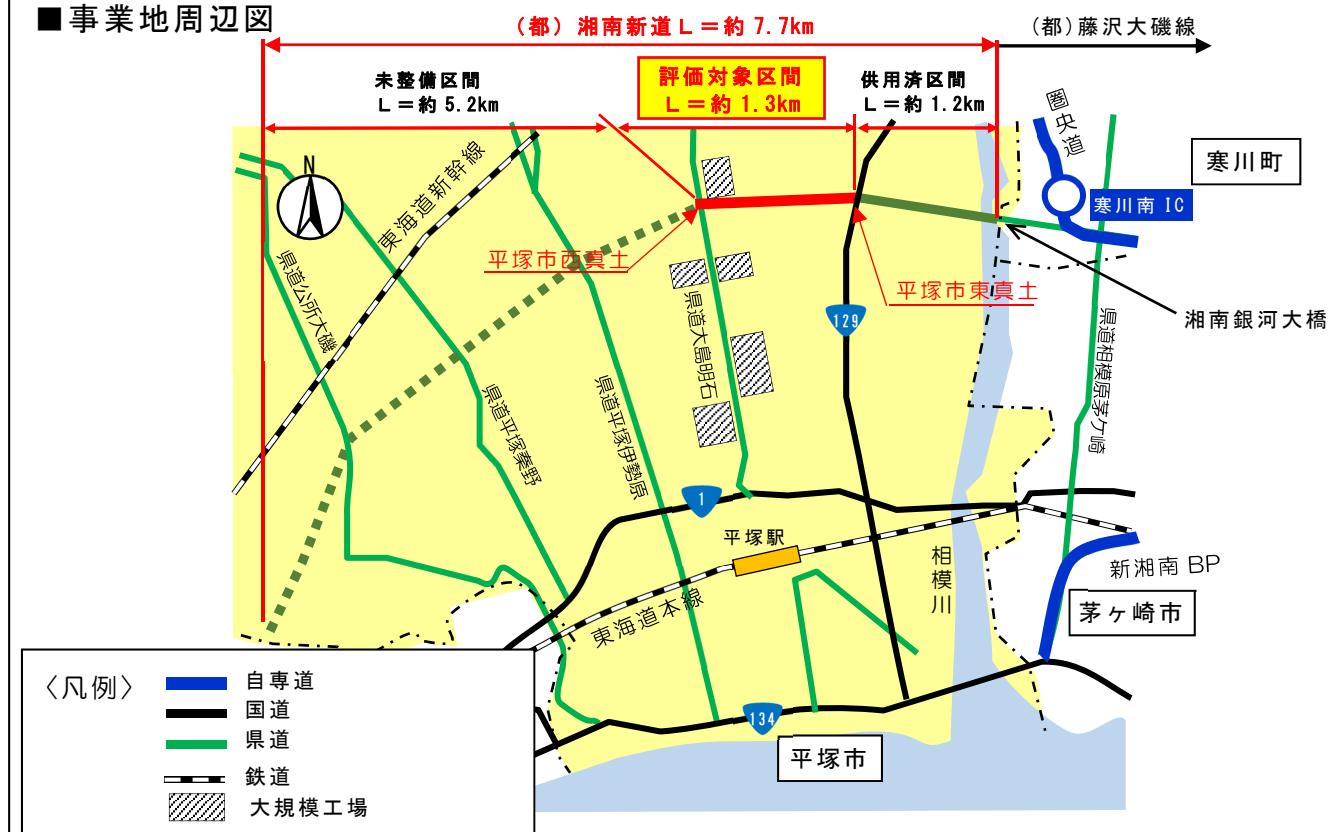
- ア) 本路線は、平塚市四之宮を起点として、相模川から国道 129 号や県道 61 号（平塚伊勢原）、県道 62 号（平塚秦野）を経て、大磯町境に至る 4 車線の幹線道路である。
- イ) 湘南地域における東西方向の交流連携の強化や圏央道の寒川南 IC、茅ヶ崎中央 IC へアクセスし、広域的なネットワークを形成する主要な路線である。
- ウ) 平塚市中心市街地の慢性的に生じている交通混雑の緩和に寄与する路線である。



2) 評価対象事業の概要

- ア) 評価対象区間は、都市計画道路の全長約 7.7 km のうち、国道 129 号から県道 606 号（大磯明石）までの延長約 1.3 km 区間である。
- イ) 国道 129 号東側の供用済区間約 1.2 km は、既に 4 車線で供用している。
- ウ) 評価対象区間は、平成 22 年度に事業着手している。

■ 事業地周辺図



3) 評価対象事業の位置づけ

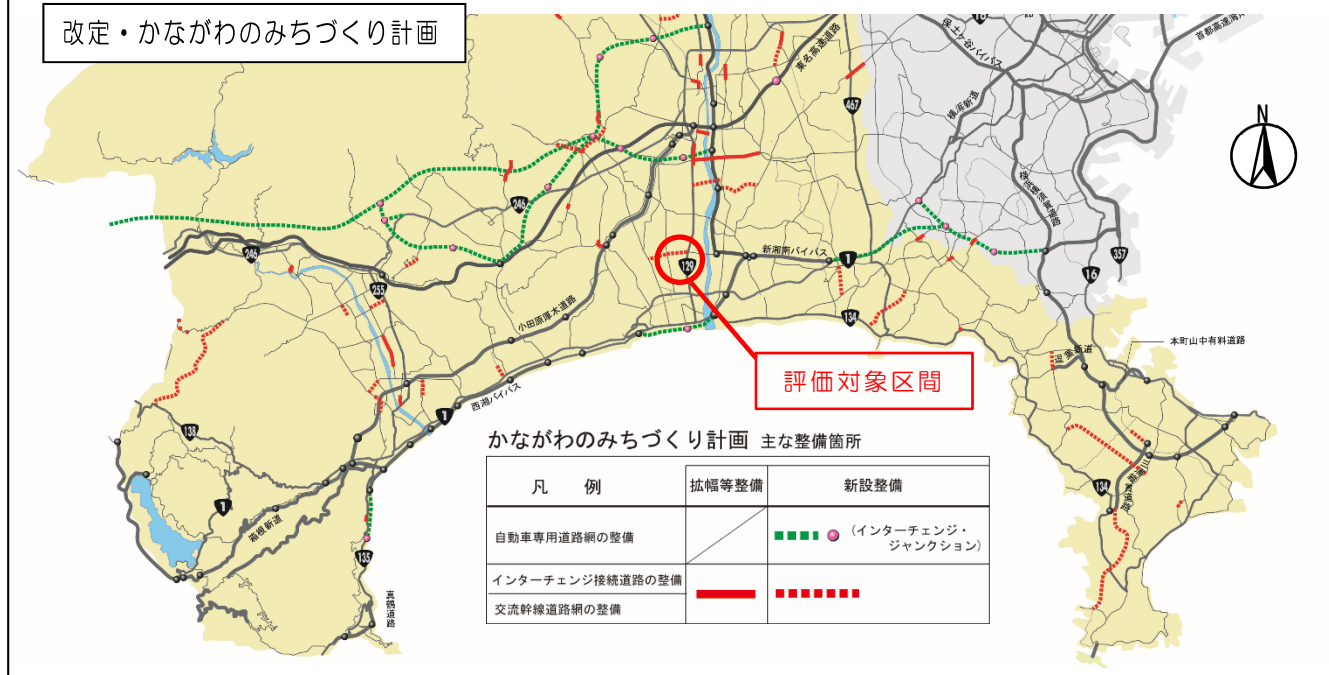
ア) 県の計画：

- a) かながわランドデザイン実施計画〔令和元年7月〕
「交流幹線道路網の整備」として位置づけ
- b) かながわ交通計画（交通施策に関する部門別計画）〔平成19年10月〕
・多車線機能を有する一般幹線道路網に位置づけ
- c) 改定・かながわのみちづくり計画（かながわ交通計画の道路部門実施計画）〔平成28年3月〕
・「交流幹線道路網の整備」として位置づけ

イ) 市の計画：

- 平塚市都市マスタープラン〔平成20年10月〕
・「市外と広くつながる東西、放射方向の幹線道路の整備」として位置づけ

改定・かながわのみちづくり計画



No. 4 都市計画道路 湘南新道 街路整備事業

2. 事業の経緯や必要性

1) 経緯

- ・昭和36年度：当初都市計画決定
- ・平成3年度：都市計画変更（立体交差）
- ・平成22年度：事業認可取得、用地取得開始
- ・平成28年度：事業認可変更（事業施行期間延長）

2) 必要性

- ア) 湘南地域の東西方向の交流・連携の強化を図るとともに、圏央道のICにアクセスする、広域的なネットワークの形成に整備が必要な路線である。
- イ) 評価対象区間と並行する国道1号や接続する国道129号などは、交通量が多く日常的に混雑しており、中心市街地への交通を迂回させるとともに交通分散を図るため、本路線の整備が必要である。

3. 事業の目的

- 1) 交流幹線道路網の整備による地域間の連携強化
- 2) 圏央道のICへのアクセス強化
- 3) 湘南地域における慢性的な交通混雑の緩和

4. 事業の内容

- 1) 起終点：平塚市東真土～西真土
- 2) 事業延長：約1.3km
- 3) 幅員：25.0m
- 4) 交通量：計画交通量 24,100～24,600台/日（H42推計）
現況交通量 30,233台/日※（H27全国道路・街路交通情勢調査、供用済区間）
※12時間交通量に昼夜率（H27全国道路・街路交通情勢調査1.37）を掛けて算出
- 5) 道路規格：第4種第1級
- 6) 設計速度：60km/h
- 7) 車線数：4車線
- 8) 歩道形態：両側歩道
- 9) 主な工種：道路改良工

5. 事業実施にあたって配慮した項目

- ・埋蔵文化財の調査時には、沿線住民が、現道へ出入りするための通路を確保するなど、住民生活に支障のないよう、配慮している。
- ・国道129号から市道八幡愛甲線までの区間を先行して供用するため、用地取得も優先して対応している。
- ・用地取得後、安全確保のため、仮囲いの設置などを行っている。

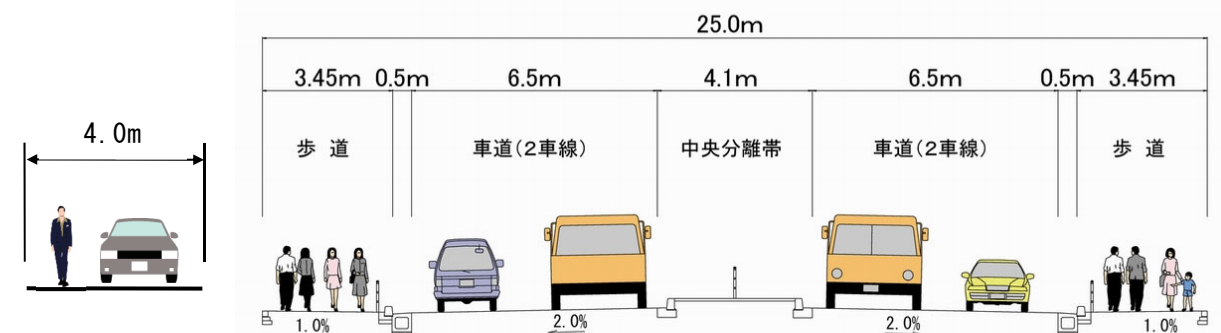
■ 平面図



■ 標準横断面図

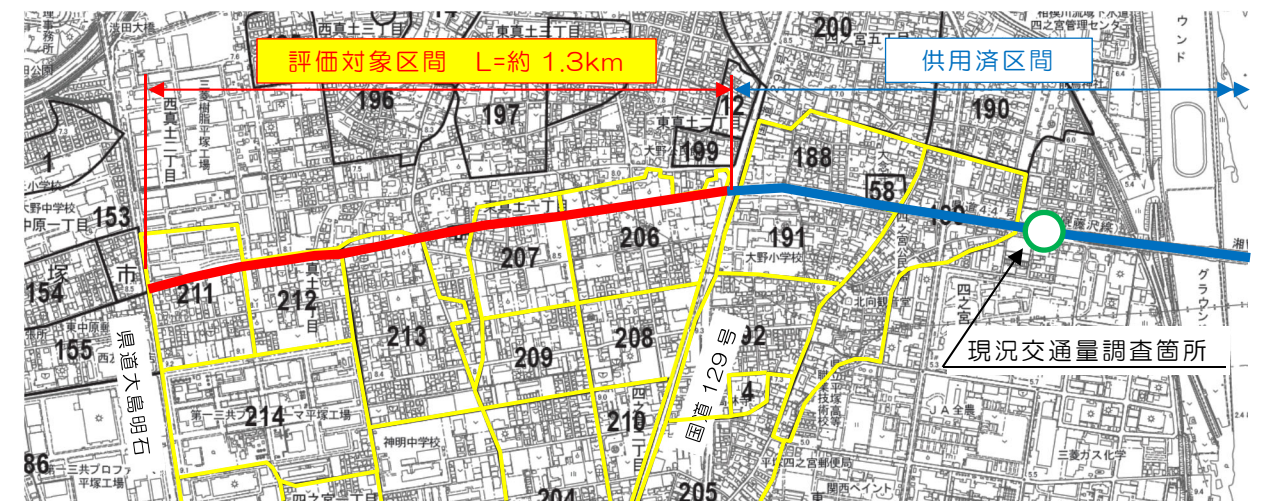
【整備前】

【整備後】

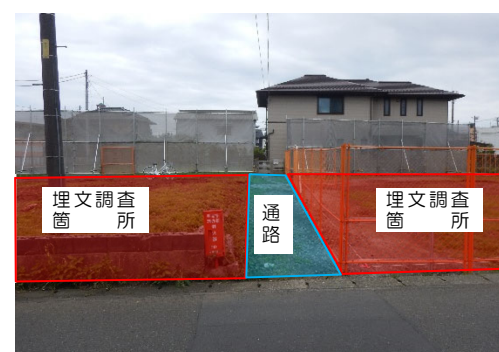


■ 事業実施状況

遺跡分布地図



埋蔵文化財調査箇所 通路確保状況



仮囲い設置状況



◆ チェックリスト

(1) 事業の必要性等に関する視点

①事業を巡る社会経済情勢

ア) 地域の状況

- ・評価対象区間は、平成26年度に開通した圏央道の寒川南IC5km圏内に位置することから、広域的ネットワークが形成され、地域間交流や物流の効率化が図られている。
- ・圏央道沿線地域は、新たな企業立地や雇用創出が進んでいる。

イ) 地元の意識

- ・圏央道寒川南ICへのアクセス強化により、経済活動が活性化することを期待し、評価対象区間の早期整備を望んでいる。

ウ) 事業地の状況

- ・国道129号以东の1.2km区間を4車線で供用開始したことにより、混雑度が緩和されている

エ) 周辺の環境

- ・評価対象区間の沿道には、避難所に指定されている小・中学校が立地している。

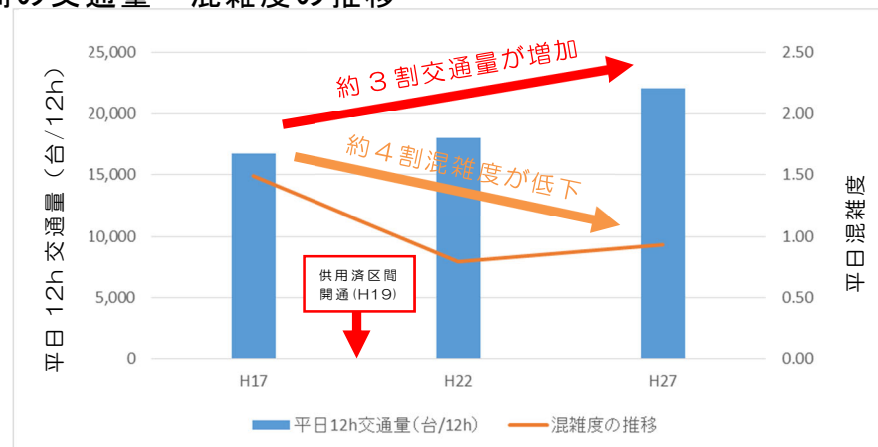
■評価対象区間周辺及び圏央道沿線における立地企業状況



< 凡 例 >

- : インベスト神奈川
インベスト2ndステップ
セレクト神奈川 100 の活用企業
- : 工業団地

■供用済区間の交通量・混雑度の推移



全国道路・街路交通情勢調査

②事業の投資効果等

■費用対効果

総費用 C = 99 億円

総便益 B = 334 億円

- ・事業費 : 96 億円
- ・維持管理費 : 3.3 億円
- ・走行時間短縮便益 : 272 億円
- ・走行経費減少便益 : 56 億円
- ・交通事故減少便益 : 12 億円

費用便益比 $B/C = 334/99 = 3.4$

経済的内部収益率 (EIRR) 12.1%

■上記便益に算定されていない効果

ア) 防災

- ・「第1次緊急輸送道路」に指定されている、国道1号、国道134号の代替路が確保され、防災機能の強化が期待できる。
- ・沿道には、災害時の避難場所となる小・中学校があり、安全で円滑な避難が期待できる。
- ・広幅員の道路整備により、火災発生時の延焼を防止する防災空間を確保できる。

イ) 安全・安心

- ・両側に歩道が整備され、歩行者の安全性が確保されるほか、高齢者の移動の安全性も確保される。

ウ) 地域の活性化

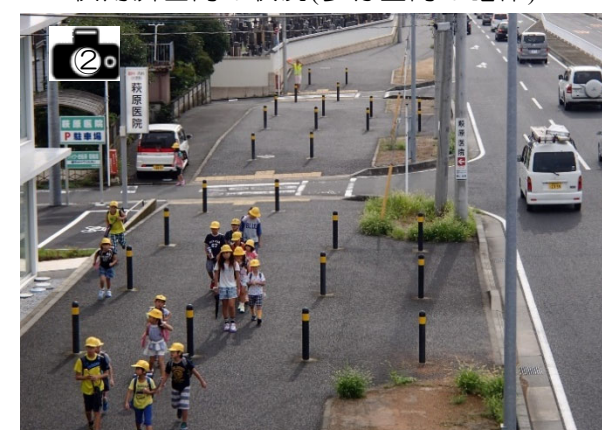
- ・平塚市中心部をはじめとする湘南地域と圏央道のICへのアクセスが強化され、地域間交流や物流の効率化により、地域の活性化が図られる。

■整備済み区間の状況

供用済区間の状況



供用済区間の状況(歩行空間の確保)



評価対象路線周辺の状況



№. 4 都市計画道路 湘南新道 街路整備事業

③関係する地方公共団体等の意見

- 新湘南国道並びに藤沢大磯線（湘南新道）新設改良促進協議会：
圏央道寒川南ICへのアクセス強化に伴う、経済活動の活性化が期待されていることから、本事業の早期整備を要望する。
- 神奈川県商工会議所連合会：
圏央道へのアクセス強化を図るため、湘南新道の整備促進を要望する。

（２）事業の進捗の見込みの視点

①事業の進捗状況

- 事業化年度：平成22年度
- 用地着手年度：平成22年度
- 進捗率：37%（用地取得率：62%）
- 供用率：0%
- 残事業の内容等：用地取得、埋蔵文化財調査、道路改良工

②これまでの課題に対する取り組み状況

- ・未取得用地について、早期取得が行えるよう交渉を続けている。
- ・用地が取得できた箇所から、速やかに埋蔵文化財調査を進めている。

③今後のスケジュール

埋蔵文化財包蔵地であるため、用地取得が出来た区間から調査を完了させ、早期の工事着手を図る。

	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
用地補償			
埋蔵文化財調査			
工事			

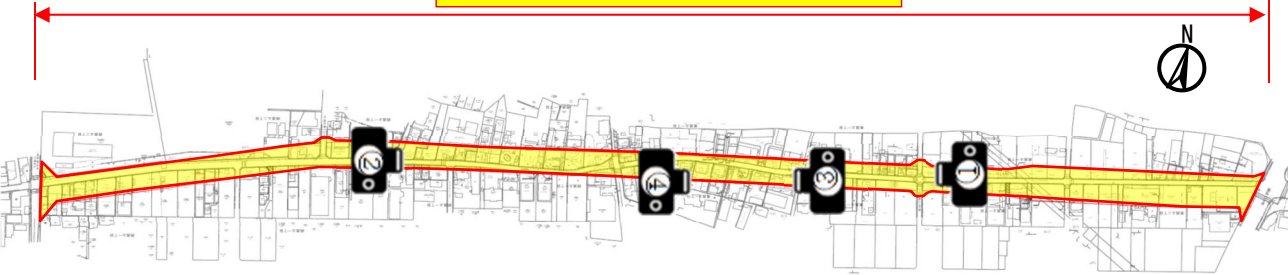
（３）コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

■代替案立案等の検討

- ・自動車販売店や町工場など、補修物件の移転先確保等の課題から、用地取得に時間を要し、事業期間の延長が必要となった。
- ・評価対象区間東側の国道129号から湘南銀河大橋を経て、新湘南バイパス茅ヶ崎中央ICまでの約3.7kmが既に4車線で供用されており、路線の連続性を確保する観点からも、現計画による整備が最善である。

■評価対象区間の状況

評価対象区間 L=約 1.3km



評価対象区間起点付近



評価対象区間中間付近



埋蔵文化財発掘状況



評価対象区間起点側より約600m付近で発見された遺構



◆ 対応方針（案）

継続

本事業は、湘南地域における東西方向および広域的なネットワークを強化する重要な路線であり、慢性的な交通渋滞の緩和や他地域との交流連携などによる経済活動の活性化を図るなど、事業の必要性に変化はなく重要性は依然として高いことから、事業を継続する必要がある。